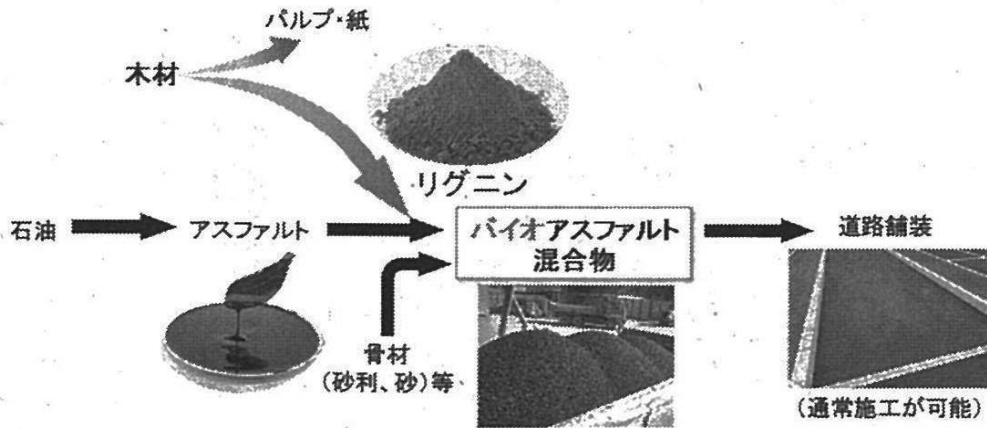


バイオアスファルト混合物開発へ

木材由来のクラフトリグニン利用

大成ロテックと日本製紙



大成ロテックと日本製紙が共同で研究する「クラフトリグニンを使用したバイオアスファルト混合物の開発」が、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の戦略的省エネルギー技術革新プログラムに採択された。

道路の舗装に主たる材料として使用されている化石燃料を原料とする石油アスファルトは目的物として生産され、原油は地政学的な影響を受けやすく、また、輸送、製油、アスファルト舗装にいたる工程で多くのエネルギーを必要とする。他方、森林資源は身近にある資源。

世界規模で要請されている温暖化対策とともに、社会の維持に不可欠な道路舗装の整備を持続可能な資源で賄うため、同事業では、大成ロテックが得意とする特殊アスファルトを製造する技術と、日本製紙が持つリグニンを有効活用する技術とを新たに結合させて応用し、木材由来のクラフトリグニンを

アスファルト舗装の原料の一部に利用した、通常の合材工場で製造可能なバイオアスファルト混合物の開発に取り組む。

石油アスファルトの使用量を低減したバイオアスファルト混合物を使用すると、原材料のバイオマス化に加え、原油からアスファルト道路舗装へ至る工程全体として化石エネルギー利用量の抑制が期待される。

今後、大成ロテックはバイオアスファルトおよびバイオアスファルト混合物の製造方法の検討、舗装施工の品質管理および供用性評価等を行い、日本製紙はクラフトリグニンをアスファルト利用に適した品質とするための改質を検討していく予定。